

勸善 懲惡
讀坊講譯

東海道に其名よく響く

駈路の鈴が志角前がもの

手の内い通じ咲け花川戸

彼の長兵衛が食客とら

九井筒の紋所羽二重

おその浪人のソコ候と知して

權八が廓通ひの闇まざれ

合手へ誰と見れば白刃を

ためは二重切り恋慕涙のひと

節を世子云くやせし

身の果の色情と

邪心の毘翼つら

其發潤の一盛りを

天鏡いろを照らすべし

早く滅せし物語あふ

戒しめ記せあるん

花源堂



平井権八

新編
 讀坊講譯

第九一

第九一